

# 環境活動への取り組み に対するご意見

九州電力環境顧問会	59
レポートの読者アンケート	61
お母さま方の環境意識	62
社員の環境意識	63
社外評価、社外表彰	64

長崎県 雲仙  
長崎県仁田峠より登山道を行けば、  
眼前に燃えるような紅葉の普賢岳が姿を現します。



## 九州電力環境顧問会

2007年5月21日(月)に「第7回 九州電力環境顧問会」を開催し、当社及び九電グループの環境問題への取り組みや「2007 九州電力環境アクションレポート」について、様々なご意見をいただきました。

ここで、九州電力環境顧問会委員の皆さま、及び環境顧問会開催時の主なご意見とその反映状況についてご紹介します。

### 九州電力環境顧問会委員

(50音順 敬称略)



あかぎ えい  
**赤木 衛**  
著述業



あさの なおひと  
**浅野 直人**  
福岡大学法学部  
教授  
中央環境審議会  
委員



いしくぼ なほみ  
**石窪 奈穂美**  
生活  
ジャーナリスト



おおつか まさお  
**大塚 政雄**  
環境省  
環境カウンセラー  
(市民部門)



おく まみ  
**奥 真美**  
公立大学法人  
首都大学東京  
都市教養学部  
都市政策コース  
教授



さわだ たかお  
**沢田 孝雄**  
読売新聞西部本社  
事業本部長



つつい やすひこ  
**筒井 泰彦**  
エッセイスト



つるた さとし  
**鶴田 暁**  
九州地域環境・  
リサイクル産業  
交流プラザ  
副会長



なかむら ひでたか  
**中村 英隆**  
おんが  
遠賀信用金庫  
理事長



ふくいずみ あきひろ  
**福泉 亮**  
福岡県立  
修猷館高等学校  
教諭



まるもと ふみのり  
**丸本 文紀**  
株式会社  
県民百貨店  
くまもと阪神  
代表取締役社長



会議風景

「九州電力環境顧問会」でいただいた貴重なご意見については、今後の環境活動や環境アクションレポートの記載事項に反映させていただきます。

## 環境問題への取り組み

ご意見の概要	ご意見の反映状況
<p>◆CO<sub>2</sub>排出原単位の低減</p> <p>○CO<sub>2</sub>排出原単位の低減については、電力会社として責任を持ってしっかり取り組んでもらいたい。</p>	<p>○原子力発電の利用率向上や再生可能エネルギーの導入などを通じたCO<sub>2</sub>排出原単位の低減はもとより、お客さまと一体となった電気の使用面での取り組みや京都メカニズムの積極的な活用などにより、CO<sub>2</sub>排出抑制に最大限努力していきます。</p>
<p>◆原子力の情報公開</p> <p>○CO<sub>2</sub>排出量を抑制させるためには、原子力の安全安定運転が不可欠。原子力に対する信頼が揺らいでいる時期だと思われるので、これまで以上に情報公開をしっかり行う必要がある。</p>	<p>○安全安定運転の実績を重ねることで、社会の皆さまに「安心」を抱いていただくとともに、皆さまの立場に立った丁寧な説明や、透明性の高い情報公開に引き続き努めることで、「信頼」の回復に寄せていきます。</p>
<p>◆国際貢献</p> <p>○光化学スモッグ注意報発令に関する記述があるが、この事象は越境環境汚染を示すものである。「九州電力の思い」にあるように、アジアや世界を見据えた国際貢献の観点から、このような環境問題の解決に向けてリーダーシップを示すべき時期にきたのではないかと。</p> <p>○世界的な課題である環境問題解決のためには、国際的な環境スペシャリストの育成が重要。日本に受け入れて教育するだけでなく、海外において直接教育するなど、国際化を含めた人材育成に努めてほしい。</p>	<p>○ガスコンバインドサイクル方式によるIPP事業や省エネコンサルティング事業、人材育成に資するJICA等の機関を通じた専門家派遣などの国際貢献活動については、引き続き積極的に展開するとともに、今後も環境アクションレポート等を通じたPRに努めていきます。</p>
<p>◆環境コミュニケーション</p> <p>○環境コミュニケーションの更なる推進のためには、コミュニケーションを面的に拡げる努力とともに、環境アクションレポート等をより多くの方々に読んでいただく努力も必要である。</p>	<p>○社員の環境コミュニケーションツールの一つとして、環境アクションレポートのポイントを要約した電子パンフレットを全社員に周知、活用することで、「九州電力の思い」実現に向けた環境コミュニケーションの充実と全社員を通じた環境アクションレポートの認知度向上を図っていきます。</p>
<p>◆環境教育支援</p> <p>○環境・エネルギー教育の一環として、展示施設等を見学した子供たちに感想画等を描いてもらい、展示会等を開催すれば、九州電力への親しみも増すのではないかと。</p>	<p>○作文や図画などを夏休みなどに募集する「子供のコンクール」を各支店レベルで開催していることから、これらの更なるPRに努めていきます。</p>
<p>◆環境意識高揚</p> <p>○環境意識高揚のためには、繰り返し同じことを言うことが大切であり、社員の更なる啓発を行うとともに、お客さまの意識高揚に資する情報の提供にも努めてほしい。</p>	<p>○EMSの事業所支援や環境ダイジェスト等の充実・活用により、引き続き社員意識の高揚に努めていきます。また、環境月間講演会など従来からの取り組みに加え、今回新たに作成した「お客さま向けの小冊子」を今後積極的に活用していくことにより、お客さまの意識高揚に資する情報提供にも努めていきます。</p>

## 環境アクションレポート・小冊子

ご意見の概要	ご意見の反映状況
<p>◆環境会計</p> <p>○環境活動コストにおける「投資」と「費用」の考え方が明記されておらず、区分が不明瞭である。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、注釈欄に、「投資」と「費用」の定義を追記しています。</p>
<p>◆電源ベストミックス</p> <p>○何故原子力を中核とせざるを得ないのか、フランスのエネルギー（電気新聞特別号）等を参考にして、理論立ててわかりやすく説明すべき。</p>	<p>○各電源の特性をまとめた一覧表などに加え、今回より、ハイライト「CO<sub>2</sub>排出抑制対策」を新たに設け、電源ベストミックスへの取り組みに関する記載内容の充実を図っていますが、ご意見を踏まえ、最新の国内外情勢等を加味しながら、環境アクションレポートに限らずあらゆるコミュニケーションツールを通じて、よりわかりやすい説明に引き続き努めていきます。</p>
<p>◆お客さま向け小冊子</p> <p>○九州エネルギー館などの九州電力の展示施設の紹介や申込方法などを掲載してほしい。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、外観写真や住所、開館時間、連絡先等を記載した展示施設の紹介ページを追加しています。</p>

# レポートの読者アンケート

2006年6月に発行した「2006 九州電力環境アクションレポート」のアンケートを通じて、九州電力の環境活動のあり方などについて、158件（2006年度末現在）の貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

九州電力の環境活動への取り組みについて、特に印象に残った項目とその理由についてお聴かせください。

九州電力の環境活動への取り組み、又はレポートの内容について、ご意見・ご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。

◆：ご回答が多かった項目、【 】：人数、○：主な理由

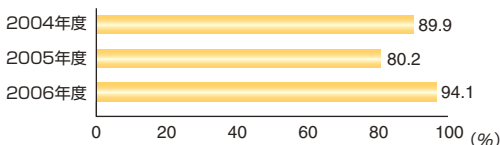
- ◆温室効果ガスの削減（再生可能エネルギーの推進）【25人】
  - 京都議定書が発効し、その達成が至上命令。本当に達成が可能かどうか注目している。
  - 火力発電は大気汚染物質を大量に放出するし、原子力発電は安全性に不安がある。風力・太陽光発電に早急に取り組む必要がある。
- ◆ゼロエミッションへの挑戦【23人】
  - 使用済み作業服をリサイクルしたエコ軍手の事業所での使用など、社内で使用するものから変えていこうという姿勢が出ていて印象に残った。
  - 基本的な3Rをしっかり実践している点に意識の高さを感じた。
- ◆エコ・マザー活動【18人】
  - 次世代を担う子供に対する環境教育の取り組みは、日々の地道な活動であると認識している。
  - 母親も子供と一緒に学ぶ。このような活動によって人々の意識が高まると考える。
- ◆九州ふるさと森づくり【14人】
  - 毎年、各地で10万本の植樹とその育林のため下草刈りをしているのは大変厳しい作業だと思うが、今後も継続的にやってもらいたい。
  - 地球環境回復の一つでもあり賛同できるが、地域活動に止まらず、世界全体へ目を向けてもしるべき。

寄せられた代表的なご意見、ご要望

- ◆環境活動
  - 技術進歩によりCO<sub>2</sub>排出原単位は減少していても、実際のCO<sub>2</sub>排出量が年々増加しており、これを削減する努力も必要。
  - エネルギー問題は環境問題の中でも大きく取り扱われる項目。原子力発電を安全できちんと整備された条件の下で使用してほしい。
  - 産業廃棄物については、リサイクル率も重要だが、何より発生量を少なくすることが重要だと思う。
  - 植樹や環境教育支援活動は地道な活動だが、今後も継続して行ってほしい。
  - 何気なく使っている電気だが、このレポートを読んで、もっと環境について考え、電気の使い方を改めていこうと思った。
- ◆環境アクションレポート
  - 日常生活の中でできることは何かあるのか、参考になるものを紹介してほしい。
  - このようなレポートがあることを初めて知った。知らない方も多くいるのではないかと感じる。もっと積極的なPRが必要。
  - ハイライトをはじめ、全体的に写真・図表が多くわかりやすい。
  - 巻末用語集はわかりやすく便利だが、文字がやや小さい。
  - 環境のための活動にはどのようなものがあるのか知るためにこのレポートはとても有効であると思う。これからは是非続けてほしい。

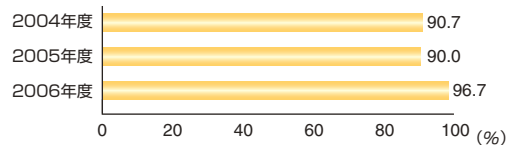
## 【ご意見の経年変化】

### ■ レポートのわかりやすさ



(注)「非常にわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合。  
(2004、2005年度は、「わかりやすい」、「ややわかりやすい」の回答割合)

### ■ 当社の環境活動への取り組みに対する評価



(注)「十分評価できる」、「評価できる」の回答割合。

## アンケート結果と対応

環境活動全般に関するものからレポートの編集・体裁に至るまで、様々なステークホルダーの方々から貴重なご意見を数多くいただきました。

いただきました主なご意見については、本レポートの関連ページにてご紹介（👤マーク）するとともに、併せて、記載内容への反映・充実を図ることで、環境コミュニケーションツールとしての更なる充実に努めています。

また、地球温暖化防止に関して、当社の活動に対するご意見と併せて、「日常生活でできる環境活動を紹介してほしい」とのご意見も多く寄せられました。このため、従来当社ホームページ上で紹介していた「私たちにできる環境活動」や「環境家計簿」などの環境情報をとりまとめ、お客さま向けの小冊子『私たちが地球のためにできること。』を新たに作成しました。

今後は、これらのツールを積極的に活用し、より多くの方々との環境コミュニケーションを展開していきたいと考えています。

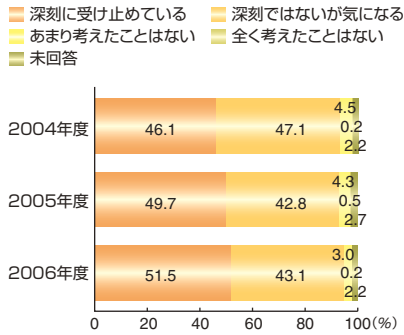


お客様向け小冊子  
「私たちが地球のためにできること。」

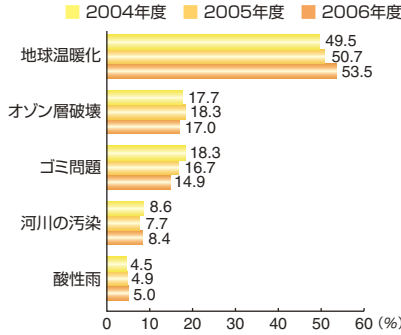
# お母さま方の環境意識

エコ・マザー活動時に、ご参加いただいた方（お子さまを対象として実施した場合には、保護者の方々）を対象としたアンケートを実施し、いただいた貴重なご意見等については、エコ・マザー活動をはじめ、当社環境活動を充実していく際の参考とさせていただきます。アンケートの配布数は20,371枚、回答数は6,760枚（回答率33.2%）でした。

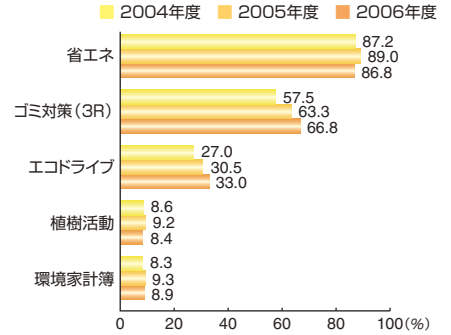
## Q1. 今起こっている環境問題をどう受け止めていますか



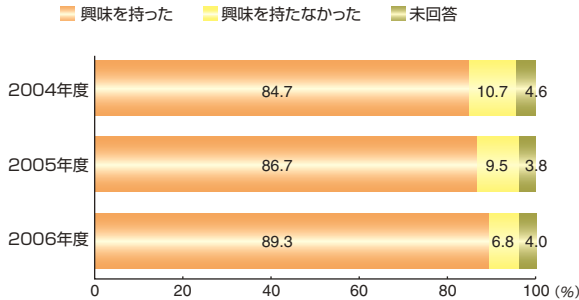
## Q2. 一番気になる地球環境問題はどれですか



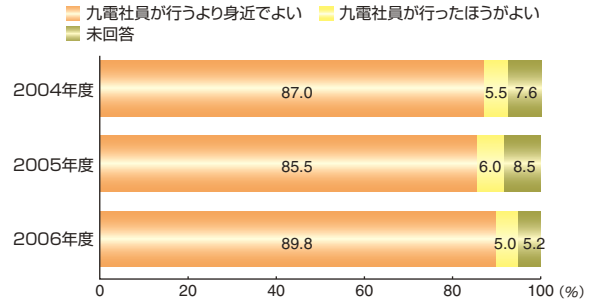
## Q3. ご家庭でやってみようと思う取り組みはありますか（複数選択）



## Q4. 環境紙芝居（絵本）に対するお子さまの反応はどうか



## Q5. エコ・マザー活動を通して、コミュニケーション活動を行うことをどう思いますか



環境活動への取り組みに対するご意見

## アンケート結果と活動への反映

### 〔アンケート結果〕

- 地球温暖化が原因と思われる自然災害の増加や、京都議定書発効（2005年2月）に伴い、地球温暖化問題への関心が高まっています（Q2 50.7%→53.5%）。
- ご家庭でやってみようと思う取り組みについては、「ゴミ対策」や「エコドライブ」への回答割合が上昇していますが、「省エネ」への回答が、依然として高い割合を占めています（Q3 86.8%）。

- エコ・マザーを通して行う活動に対して、昨年度まで減少傾向だった「九電社員が行うより身近でよい」というご意見が増加しました（Q5 85.5%→89.8%）。これは、エコ・マザーの活動スキル、知識の向上等により、活動に対する訪問先の皆さまの満足度がより一層高まっていることによるものと考えられます。

### 〔エコ・マザー活動への反映〕

- 地球温暖化に対する関心の高まりや、省エネルギー法改正によるエネルギー使用の合理化に資する情報の提供義務に対応するため、活動ツールや配布冊子類の更なる充実化に向けた取り組みを行います。
- エコ・マザー活動訪問先の皆さまによりご満足いただけるよう、活動報告会「エコ・マザーの集い」等を通じて、エコ・マザーの更なる知識・活動スキルの向上に努めます。
- その他、アンケートでの具体的なご意見として、「もっといろいろな場所で積極的に行ってほしい」とのご要望をいただいているため、現在北九州市と九州各県の県庁所在地近辺に限定している活動エリアの拡大に向けた検討を行ってまいります。

# 社員の環境意識

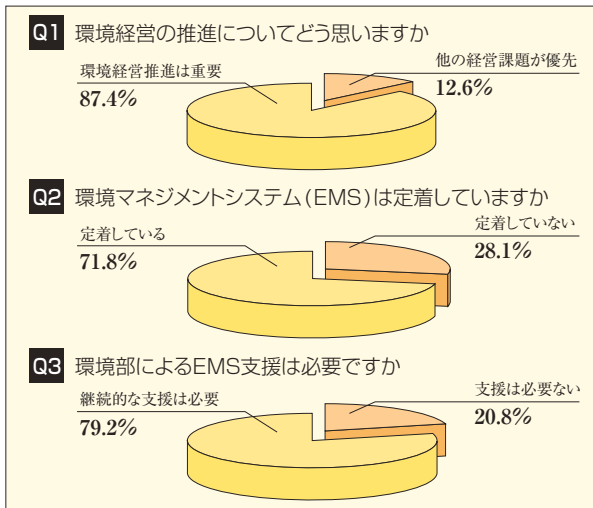
九州電力では、全社員を対象とした環境意識等調査や事業所の環境担当者と環境部管理職との意見交換会を行い、社員の環境活動に対する意識や理解、実践状況、さらにはニーズなどについて把握・分析し、より効果的な社員教育プログラムの検討や環境アクションプランの策定に反映させています。

## 社員の環境意識等調査

### 調査の概要

調査内容	環境経営、環境情報に関する認知度 環境活動に対する理解度 環境活動の個人レベルでの実践度
対象	社員 12,192名 (在職者、ただし本店の室部長以上および支店長、退職者等は除く)
回答者数	7,013名(回答率:58%)
調査方法	社内パソコンネットワークを活用した電子メールによるアンケート(回答は無記名)

### 主な調査結果



**〔分析〕** ○環境経営推進に対する理解は浸透し、具体的な取り組みであるEMSについても定着してきた。  
○取り組みの維持、促進のため、環境部による継続的な支援活動を要望する声は増している。

**〔対応〕** ○環境アクションプラン理解促進活動の継続  
○事業所のEMS運用実態に対応した支援  
○EMS内部環境監査組織への支援強化

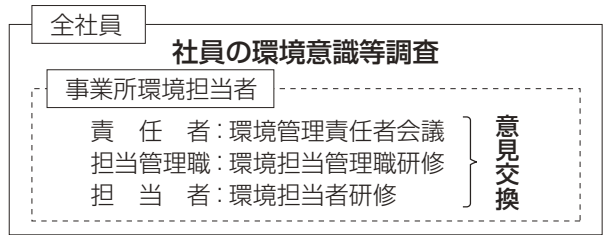
### 今後の取り組み

環境経営を推進していくためには、実際に取り組みを行う社員一人ひとりの高い意識の醸成と維持、向上が重要だと考えています。

環境への取り組み方針や目標、具体的な計画を社員一人ひとりに確実に伝えるとともに、社員の意見を幅広く聴取することができる「環境意識等調査」、「意見交換」等を今後とも継続して実施することにより、更なる環境活動の改善・充実に役立てていきます。



環境管理責任者会議(長崎地区)



## 環境管理責任者会議での意見交換

事業所の環境活動推進責任者である環境管理責任者を支店区域毎に集め、情報の共有化と意見交換を行う会議を年に2回(上期、下期各1回)開催しています。

### 主な意見と対応(環境管理責任者: 環責、環境部: 環境)

**環責:** 環境アクションレポートの位置づけはどうか、CSR報告書との統合はしないか。

**環境:** 環境アクションレポートはCSR報告書の中に掲載している環境情報を詳細に取り上げたもの。CSR報告書との統合については、社会的な動向を踏まえ検討する。

**環責:** EMSがしっかり機能していれば、内部環境監査によるチェックは不要ではないか。

**環境:** 内部環境監査はシステムが上手く機能しているか確認するために必要であり、システムの改善につなげていくという重要な役割がある。

**環責:** 共同回収品目の拡大、グループ会社を含めた取り組みを進めてもらいたい。

**環境:** 回収品目の拡大については、現在の共同回収品目に次いで排出量が多い汚泥と廃油について検討を実施中。グループ会社への拡大については、各社の事情等を調査の上、準備ができたところから順次実施する。

## 環境担当管理職、担当者研修での意見交換

事業所で環境経営を実際に推進している管理職、担当者を集めた研修会において、環境部長ならびに環境部の各グループ長と直接意見交換を行う場を設定し、意思の疎通を図っています。

### 主な意見と対応(環境担当: 環担、環境部: 環境)

**環担:** 環境会計システムへの入力分かりにくい。

**環境:** 様式の改善、記入要領書の見直しなどについて検討する。

**環担:** 全社大の用紙購入量、上水使用量の目標は見直さないか。

**環境:** 新規の目標設定にあたり現状維持としたものであるが、事業所の取り組み状況等を踏まえ、見直していく。

# 社外評価、社外表彰

## 社外評価

社会評価名	主催者	実施時期	九州電力の評価
「世界企業ランキング500」	ニューズウィーク	2006年 6月 ニューズウィーク誌掲載	279位 (国内68位)
世界に自慢できる企業 ベスト100	読売新聞社	2007年 2月 読売ウイークリー誌掲載	4位
第10回「企業の環境経営度」調査	日本経済新聞社	2006年 8月	3位/15社 (電力・ガス部門)
「企業評価システム・プリズム」(2006年度)	日本経済新聞社	2006年10月	395位/1047社
環境格付け	株式会社 トーマツ審査評価機構	2006年11月	BBB (9ランク中4番目)

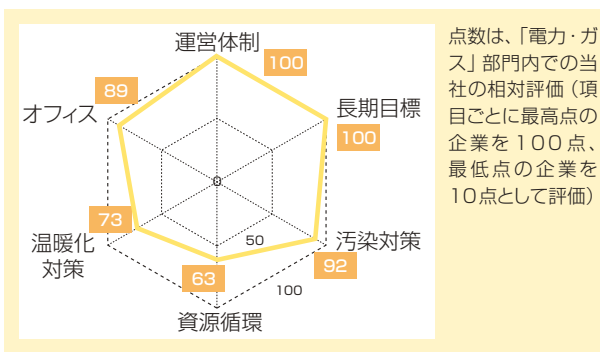
### 日経新聞 第10回「環境経営度調査」結果について

業種別ランキング「電力・ガス部門」で15社中第3位となりました。

#### ■ 調査の概要

実施期間	2006年8月～11月	
調査方法	製造業1,741社、非製造業・電力・ガス・建設業2,369社を対象としたアンケート調査	
評価手法	部門ごとに各設問の得点を6つの評価項目毎に整理・合算し、ランキング	
6つの評価項目の概要	運営体制	環境管理体制(EMS)の構築状況、環境教育制度の構築状況、環境意識高揚対策
	長期目標	環境負荷削減に向けた中長期的な目標の設定状況
	汚染対策	化学物質、産業廃棄物の管理状況
	資源循環	投入資源の把握状況、廃棄物の社内再生利用状況、グリーン調達実施状況
	温暖化対策	新エネルギーの導入状況、温室効果ガス削減への取り組み状況
オフィス対策	オフィスにおける資源循環・CO <sub>2</sub> 削減対策の実施状況	

#### ■ 九州電力の得点状況



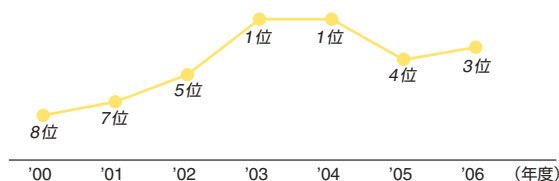
#### 調査結果の分析と具体的改善策

温暖化対策と資源循環の2項目で評価が低くなっています。これは、温暖化対策では、CO<sub>2</sub>排出量が前年度から15%増加したこと、資源循環では、産業廃棄物総合リサイクル率実績が92%と他電力平均(97%)を下回っていることが原因の一つと考えられます。

これらを踏まえ、環境活動の充実が必要な項目については、既に対応を開始しています。

改善項目	内容
CO <sub>2</sub> 削減対策	・原子力の安全安定運転 ・風力発電受付規模の拡大 ・物流輸送委託時の効率化 ・低燃費車への計画的な更新と燃料消費率に係る目標の設定
産業廃棄物総合リサイクル率の向上	・産業廃棄物共同回収対象事業所の拡大 ・生ごみ処理機の計画的導入
オフィス対策	・自家消費電力量、コピー用紙購入量、上水使用量の抑制対策の徹底 ・全グループ会社を対象としたグリーン購入の推進

#### ■ 業種内(電力・ガス)での当社のランキング推移



環境活動への取り組みに対する意見

## 社外表彰

表彰名	対象	実施団体	受賞年月
花と緑のコンクール優秀賞	宮崎支店延岡営業所	宮崎県延岡市	2006年 5月
肥後の水資源愛護賞	熊本支店	(財)肥後の水資源愛護基金	2006年10月
「小さな親切」実行賞	長崎支店配電部	(社)「小さな親切」運動本部	2006年11月
	熊本支店人吉電力所		2007年 1月
エネルギー管理功績者	九州経済産業局長表彰	八丁原発電所員 新小倉・豊前・苓北発電所員 新小倉・竜郷発電所員 新小倉・新大分・川内・豊玉・龍島第一・新与論発電所員	2007年 1月
エネルギー管理功労者	(財)省エネルギーセンター支部長表彰		
エネルギー管理優秀技能者	(財)省エネルギーセンター会長表彰		
「人にやさしい福祉のまちづくり」条例に基づく知事表彰	宮崎支店高鍋営業所	宮崎県	2007年 3月
	土木学会環境賞 (Iグループ)	小丸川発電所建設所	(社)土木学会